

「かん乾でん田じき直まき播」とは！？

苗を作らずに、直接「もみ」を播いて稲を栽培する方法です。
苗作りに必要な労力等を大幅に減らすことができます。

米の生産費は約11.5万円(/10a)で、労働費が全体の約3割を占めます(表1)。

労働時間は、規模拡大にともなう作業の効率化等により約24時間(/10a)にまで減少してきていますが(表2)、うち25%を占める「育苗・田植」作業の省力化が進まず、規模拡大や労力低減の阻害要因となっています。

特に、育苗作業はスケールメリットの効果があまり期待できず、労働時間の低減が進みにくい作業です。

経営規模が拡大する状況にある中、年々育苗枚数が増え、苦勞しているのではないのでしょうか？

そこで昨年、田植を省略する「乾田直播」の実証試験を管内2ヶ所(大分市の国分、下宗方)で行い、結果が良好だったので、今年から本格導入されています。

(表1)米の生産費

項目	円/10a	比率
物財費	79,311	70%
種苗費	3,691	3%
肥料費	9,318	8%
農業薬剤費	7,640	7%
光熱動力費	4,362	4%
土地改良及び水利費	4,468	4%
賃借料及び料金	12,200	11%
農機具費	24,898	22%
その他物財費	12,734	11%
労働費	34,731	30%
合計	114,042	100

(H27農林水産統計：販売農家の平均)

どこか削れるところがないかな？



(表2)米の労働時間

作業名	時間/10a	比率
育苗	2.90	12%
耕起整地	3.28	14%
田植	3.06	13%
除草	1.29	5%
管理	6.03	25%
刈取脱穀	3.01	12%
その他	4.63	19%
合計	24.20	100%

(H27農林水産統計：販売農家の平均)

「乾田直播」の特徴と大まかな作業の流れ

- 畑状態の水田に「もみ」を播き、そのまま畑状態にしておきます。
(「代かき」をせず漏水しやすいため、後々に用水が充分確保できることが条件)。
- 播種後、「鎮圧」作業を行います。
(鎮圧により、土塊を砕き種子と土を密着させ、漏水を抑えます)
→「出芽率」と「除草剤の効果」を高める効果もあります。
- 1～2週間で芽が出てきます。まだしばらく、畑状態で育てます。
(この間に草が生えないよう、播種後に除草剤をまいておきます)
- 播種後30日程(葉齢4～5葉期)してから、田に水を入れます。
(この頃にはかなり稲が育っています)
- 後は、基本的に通常の稲作と同じです。

苗を作らんで済むようになれば楽やナー～

